

令和6年度 学校評価書

評価基準

4、A(期待以上…8割以上) 3、B(ほぼ期待通り…5~8割) 2、C(期待を下回る…2~5割) 1、D(改善を要する…2割未満)

都城市立西中学校

本年度の重点目標		評価項目		生徒	生徒	保護者	保護者	教師	教師	学校の自己評価コメント	自己評定(総合)	学校運営協議会評価	学校運営協議会コメント		
		R5	R6	R5	R6	R5	R6								
豊かな心の育成	命を大切にし、感謝の気持ちを育てる。	① 生徒の悩みや相談に適切に対応している。	3.2	3.3↑	2.8	3.0↑	3.1	3.2↑	○ 学期1回の教育相談期間を設け、定期的にもやもやアンケートも実施した。いつも相談できる環境(関係)づくりを更に構築する必要がある。 ○ ピアサポート活動の取組を通年で行い、生徒の意識の高まりが見られた。 ○ 生徒及び保護者のスクールカウンセラーの活用を図ることができた。また、関係機関との連携を図ることができた。 ○ 命を大切にする授業を学年ごとに共通テーマを設け、実施した。 ○ 今年度、親子奉仕作業の実施方法を変更し、生徒は任意とした。清掃への取組は、良好である。	B	B	○ スクールカウンセラーと積極的に連携し、専門家を交えた相談活動を実施できた。 ○ 年度途中からであったが、相談する場所のあり方や体制作りに取りかかりはじめ、チームでの対応が出来はじめた。 ○ 保護者啓発～子どもの自主性の育成が大切である。 ○ 教育相談、いじめもやもやアンケート、ピアサポート活動による成果も出ている。一方で、困り感を抱いている生徒の数も一定数存在しており、課題も残る。 ○ 参観日や人権教育週間に於いて、共通のテーマで道徳の授業を実践できた。また、生徒の感想を掲示し、多様な考え方に対する接することができるようになっていた。 ○ アンケート結果から、項目のトータルでは、昨年度より生徒・保護者ともに肯定的な捉え方になっている。			
		② 生徒は、ありがとうの気持ちを進んで示している。	3.6	3.7↑	3.0	3.0	2.9	2.9							
		③ 生徒は、楽しそうに学校に通っている。	3.3	3.5↑	3.1	3.2↑	3.0	3.0							
		④ 生徒は、家庭で清掃や手伝いをし、きれいな環境で生活できている。	3.3	3.4↑	2.8	2.8	2.8	2.7↓							
		⑤ 生徒は、親子奉仕作業や清掃活動に参加している。	2.3	3.6↑	2.6	2.7↑	2.9	2.7↓							
	清掃や奉仕活動等を家庭で体験させる。	⑥ 生徒に校則や社会のルールを守る指導ができる。	3.5	3.7↑	3.0	3.0	2.9	2.9	○ 校則については、冬季の服装の見直しを行った。また、生徒会活動と連携しながら生徒が主体的に考え、関わる方向で校則の見直しを進めているところである。 ○ 情報端末機の使用(授業、SNS等)の課題・トラブルがあり、家庭と連携した対応が必要である。 ○ あいさつは学校内外で良好であるが個人差があるため、あいさつ指導の継続をしていく必要がある。 ○ 返信や課題等の提出状況は個人差が顕著である。期限厳守の意義を理解させる指導を継続していきたい。	B	A	○ ネット上のいじめ防止・SNSの使い方に関する指導を行っている。今後も、家庭への啓発も含め、情報モラルやスマート等、情報端末機の取扱いについても指導してもらいたい。 ○ 西中生のあいさつは、個人差はあるが他校と比べ大変素晴らしい。民生児童委員との連絡会でも高評価であった。 ○ 校則の見直し～生徒が主体的に見直しの取組を行っていることは素晴らしい。評価できる。今後は、ぜひ、その経過も情報発信できるとよい。 ○ 提出物について、提出することや提出期限を守ることの意義を理解させる指導をしてもらいたい。			
		⑦ 生徒は、時間を守って行動することができている。	3.5	3.6↑	3.1	3.1	2.7	2.9↑							
		⑧ 生徒は、あいさつは「いつでも、どこでも、自分から」を実践できている。	3.4	3.5↑	3.0	3.0	2.9	2.9							
		⑨ 生徒は、提出物を期限内にきちんと提出できている。	3.3	3.3	3.0	3.0	2.5	2.7↑							
		⑩ 生徒は、基本的な学習習慣を身に付けている。	3.1	3.2↑	2.6	2.6	2.5	2.6↑	○ 家庭学習に意欲的に取り組めていない実態がある。宅習ノートの提出義務をなくし3年目になるが、学習習慣の定着・学力向上の手立てとして教科コンクールを計画している。家庭学習習慣の定着・充実を図るために、学習の動機付け、課題(宿題)等の出し方の更なる方策を講じる必要がある。 ○ 学力定着及び学力向上のために、ICTを活用した授業を実践し、生徒も意欲的に取り組んでいるが、授業形態の工夫や個に応じた指導等、更に授業改善を図る必要がある。 ○ 数学科と英語科で、TTや習熟度に応じた少人数指導を行い、個々に応じた支援のあり方を工夫している。 ○ 自主的な学習の時間「さくら咲くタイム」を導入した。 ○ 漢字検定、英語検定、数学検定等の検定試験を約2割の生徒が受験しており、上級取得に向け意欲的に取り組んでいる。校内のコンクールへの取組が、もう一步であった。				○ 学力向上が課題である。授業の改善だけでなく、キャリア教育を充実させ、将来の進路実現に向けて、能動的に学習できる生徒を育成する必要がある。将来の進路選択の幅を広げられるようにするためにも、基礎学力をしっかりと身に付けさせることが大事である。 ○ 家庭学習について ・課題の個別最適化を図る。 ・保護者へタブレット学習についての理解、習慣化(定着)に向けた家庭のサポートについて周知する。 ・スマート等の使用についてしっかりと管理し、家庭での学習環境を整える必要がある。 ○ ICTを活用した授業のあり方の工夫をしており、今後も継続してもらいたい。 ○ 漢字検定、英語検定、数学検定等の検定試験には取り組んだが、校内でのコンクールへの取組が停滞したので、今後の改善につなげてほしい。		
学習意欲の向上	確かな学力の定着を図る。	⑪ 生徒が分かりやすいように、授業を工夫している。	3.2	3.3↑	2.7	2.8↑	2.8	2.9↑	○ 家庭学習に意欲的に取り組めていない実態がある。宅習ノートの提出義務をなくし3年目になるが、学習習慣の定着・学力向上の手立てとして教科コンクールを計画している。家庭学習習慣の定着・充実を図るために、学習の動機付け、課題(宿題)等の出し方の更なる方策を講じる必要がある。 ○ 学力定着及び学力向上のために、ICTを活用した授業を実践し、生徒も意欲的に取り組んでいるが、授業形態の工夫や個に応じた指導等、更に授業改善を図る必要がある。 ○ 数学科と英語科で、TTや習熟度に応じた少人数指導を行い、個々に応じた支援のあり方を工夫している。 ○ 自主的な学習の時間「さくら咲くタイム」を導入した。 ○ 漢字検定、英語検定、数学検定等の検定試験を約2割の生徒が受験しており、上級取得に向け意欲的に取り組んでいる。校内のコンクールへの取組が、もう一步であった。	B	B	○ 学力向上が課題である。授業の改善だけでなく、キャリア教育を充実させ、将来の進路実現に向けて、能動的に学習できる生徒を育成する必要がある。将来の進路選択の幅を広げられるようにするためにも、基礎学力をしっかりと身に付けさせることが大事である。 ○ 家庭学習について ・課題の個別最適化を図る。 ・保護者へタブレット学習についての理解、習慣化(定着)に向けた家庭のサポートについて周知する。 ・スマート等の使用についてしっかりと管理し、家庭での学習環境を整える必要がある。 ○ ICTを活用した授業のあり方の工夫をしており、今後も継続してもらいたい。 ○ 漢字検定、英語検定、数学検定等の検定試験には取り組んだが、校内でのコンクールへの取組が停滞したので、今後の改善につなげてほしい。			
		⑫ それぞれの生徒にあった指導の工夫をしている。	3.2	3.3↑	2.6	2.7↑	2.9	3.0↑							
		⑬ 生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。	2.9	3.0↑	2.4	2.4	2.1	2.2↑							
		⑭ 生徒は、漢字検定、英語検定など検定試験に意欲的に参加している。	2.3	2.3	2.4	2.3↓	2.8	2.8							
		⑮ 生徒は、校内の漢字コンクールなどのコンクールに意欲的に取り組んでいる。	3.3	3.1↓	2.7	2.4↓	2.9	2.5↓							
学校運営会議連携や地域	ボランティア体験学習を積極的に推進する。	⑯ 生徒は、ボランティア活動など学校や地域の行事に積極的に参加している。		3.4		2.8		3.1	○ 今年度は、横市まちづくり協議会等の地域の諸行事が再開され、生徒のボランティアとして参加する機会が増えた。また、地域の方々に講師として来校していただいた。 ○ 2学期以降、オープンスクールディの導入ができた。 ○ ホームページによる情報発信はできた。Sigfyによる発信が不十分な点があり、課題が残った。 ※ 学校評価の結果をもとに、生徒、保護者、地域の願いを学校経営により反映できるようにしていきたい。	B	A	○ 横市地区の諸行事等にボランティアとして多くの生徒が参加し、活動の姿勢もよい。今年度は、ボランティアとしての参加だけでなく、スタッフとして参画してもらえた。 ○ さくらの森、生徒会等を中心として、スポーツゴミ拾い大会を3学期に実施した。今後は、生徒+保護者+地域も含めた取組で発展できるとよいと感じる。 ○ ホームページやSigfyでの情報発信はしていたが、学級便りや中体連速報などのSigfy等の活用が足りなかつたようである。次年度の改善につなげてもらいたい。			
	地域と連携した教育活動の推進	⑰ 教育活動に地域の人材を積極的に活用している。	3.4	3.3↓	2.8	3.1↑	2.7	2.8↑							
	家庭や地域へ情報を積極的に発信する。	⑱ 学級便り、ホームページ、メールなどを通じて、積極的に情報を発信している。	3.2	2.6↓	3.1	2.6↓	3.5	3.3↓							